

# 韓国・在日を考える4作品上映

## 山形国際ドキュメンタリー映画祭 オンライン上映 14日まで開催中



ヤン ヨンヒ監督『スープとイデオロギー』

「山形国際ドキュメンタリー映画祭2021」が7日、オンラインで始まった（一部作品はオンライン上映なし）。韓国映画は在日コリアン3世のヤン ヨンヒ監督の『スープとイデオロギー』など4作品が出品された。

同映画祭は、ドキュメンタリー映画に特化したアジアでも数少ない映画祭の一つで、世界の最新のドキュメンタリー映画を上映するインターナショナル・コンペティションをはじめ、アジアのフレッシュな才能を紹介するもう一つのコンペティション部門「アジア千波万波」は、若く、生き生きとしたエネルギーに出会う場として大きな注目を集めている。

出品作品の『スープと

イデオロギー』（韓国・日本、21年、インターナショナル・コンペティション）は、家族を被写体にしたヤン ヨンヒ監督の作品群の続編ともいえる。母を主役にした私的映画。済州島四・三事件を生き抜いた母の半生に向き合い、失われつつある記憶をすくい取るように試みる。

母は、新しく家族になった娘の夫のために特製スープを作るが、おそろくそれを最も食べさせたのは、会うことのできない北朝鮮にいる息子たちだろう。

ホームムービーの体裁で軽やかにこの家庭にもありそちな不協和音を描きつつ、底流にある歴史の残酷さをえぐり出す。それは同時に「国家」という不確かな存在について問いを投げかけているようでもある。

同作品は、9月中旬に韓国のDMZ国際ドキュメンタリー映画祭で開幕作として上映され、ホワイトグース賞（最高賞）を受賞した。また映画製作にあたって公益財団法人 韓昌祐・哲文化財団の17年度助成を受贈。22年日本劇場公開決定。

『午後の景色』（ソングヨン監督、20年、韓国、アジア千波万波）はある街の水辺、通り、洋品店、理髪店、公園、寺院、路地、校庭などが映されるなか、カメラを持つひとりの女性が随所に現れて撮影している。

『沈黙の情景』（ミナ



チヨン・ジェウン監督『語る建築家』

便）は、建築家のチヨン・ギヨンは大腸がんと告知された後も、一民美術館の建築に関する展示や後進の育成など多忙な日々を送る。建築の公共的価値と倫理がその主な関心事であり、建築家は誰のために働くべきか、建築は社会の中でどのような道具であるべきかを身をもって示す。

「未来への映画便」は、他者に耳を傾けることにフォーカスした作品を紹介し、高校生・大学生を対象とした鑑賞ワークショップを行うと同時に、映画教育に関するシンポジウムを行う企画。

＊同オンライン上映は日本国内からのみ鑑賞が可能。全作品とも日時指定配信。視聴料金：1プログラム1300円。14日までの詳細は<https://www.yidff.jp>

## Netflix 配信各国で1位

### サイバール描いた『イカゲーム』

米動画配信大手、Netflix

トフリックスのオリジナル韓国ドラマ『イカゲーム』がインドでのテレビ番組ランキングで1位となり、同社がサービスを展開している世界83カ国・地域で首位を獲得した。

『イカゲーム』は、83カ国・地域のうちデンマークとトルコを除く81カ国・地域で1位を記録した。デンマークとトルコでも1位を獲得したが、現在は2位に後退している。インドでは自国作品が人気で1位を維持してきたが、『イカゲーム』に首位の座を譲った。

『イカゲーム』は456億（約43億円）の賞金をかけたサイバールゲームを描いている。9月に公開され、世界的な人気を博している。

